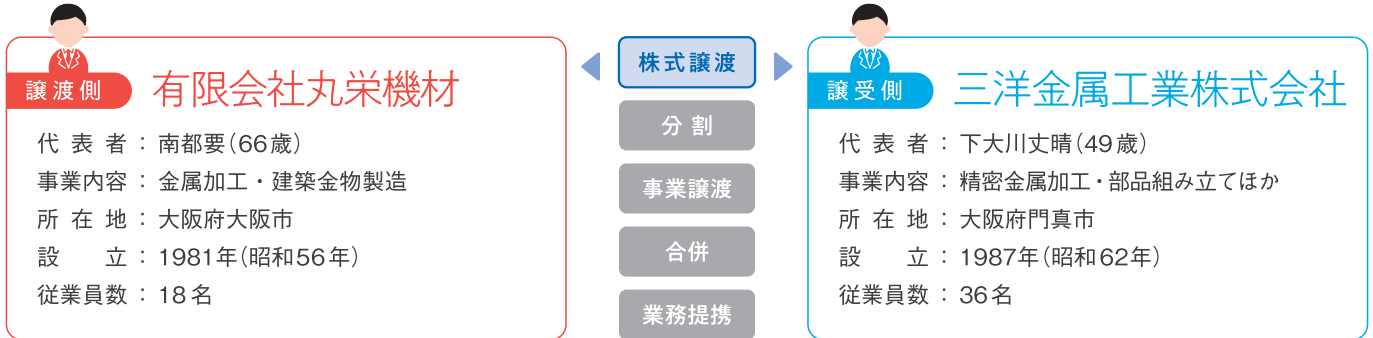


大阪のモノづくりの灯を絶やさない 既存の事業を取り込み、高付加価値を追求する



2021年7月現在



1 建築金物に強み

丸栄機材は建築金物を中心とした金属加工・製造会社で、創業者の山田晴美氏が1981年に立ち上げた。南都要氏は創業者との知己であり、以前から事業のサポート役を務めていたが、南都氏が勤務先を定年退職したのを機に入社。その後山田氏が亡くなり、南都氏が代表取締役社長に就任した。南都氏は同社株主で山田氏の長女である取締役・水井都氏とともに事業の継続方法を模索していた。



丸栄機材

2 大阪のモノづくりの灯を絶やさない

買主の三洋金属工業株式会社は1987年の設立。門真市に根付いたモノづくり企業で、特許を多数保有し、その技術力の高さからマスメディアにもたびたび紹介されている。代表取締役社長の下大川丈晴氏は2代目で、金融機関勤務などを経て家業を継いだ。後継者問題を抱える企業からの株式譲受も経験しており、傘下に2社を抱えるグループを形成している。「自社で不動産を所有していて、シナジーが期待できる企業があれば買受を検討する」と当社のGIFT mapアドバイザーに伝えており、丸栄機材の譲渡提案を受け、検討に入った。



三洋金属工業

3 スムーズに行ったトップ面談

2021年3月には下大川氏と水井氏・南都氏のトップ面談が行われた。丸栄機材の譲渡条件は会社名・事業継続と従業員の雇用継続で、3点とも合意を得た。さらに下大川氏は4月に再度水井氏と面談し、譲渡条件を整理。「下大川氏は経歴も人格も素晴らしく、将来についても忌憚なく話せました。今後はともにモノづくりの新たなステージへと進みたい」（南都氏）。譲渡を機に取締役を退任する水井氏も「無事に株式譲渡を終え、ホッとしました。丸栄機材の一層の発展を願っています」と話す。



調印式にて

4 ホールディングス化を視野に

下大川社長は今後も後継者問題に直面する企業を買い受け、双方のシナジー効果で高付加価値を生めるようなホールディングス体制を構築したいと考えている。「門真市をはじめ大阪の製造業の後継者問題は深刻ですが、大阪のモノづくりの灯を絶やすべきではないと考えています。そうした企業を買い受け、体質の強化を通じて製品の高付加価値化を図り、海外との価格競争から脱却するのが私の理想です。丸栄機材とシナジーを生む戦略は既に私の中に描いています。あとは時間をかけて一歩ずつ進めてまいります」（下大川氏）。



株式譲渡調印式を終えて

今回のM&A成立のポイント

- Point 1 | トップ同士の信頼関係の醸成
- Point 2 | グループ化後のシナジー効果
- Point 3 | 譲渡側保有の動産・不動産の価値

本事例は動画でもご覧いただけます



お客さまとお客さまをつなぐ

日本テクノのビジネスマッチングサービスは「お客さまとともに新たな可能性や魅力を探していく」という目的でスタートしました。経営指標だけでは判断できない経営者の思いなど、さまざまな事情を考慮して双方の利益を最大化し、統合後の成長戦略を促進させられるよう、あらゆる可能性をともに考えていきます。



日本テクノ株式会社

日本テクノ ビジネスマッチング

<https://gift-map.jp/>



本社 営業本部 営業企画部：〒163-0651 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 51F
MAIL：support@gift-map.jp TEL：03-5909-7019

個人情報の利用目的

弊社は個人情報保護法を厳守し、事業に関するご案内の送付、お問い合わせ時の対応、およびお客さまに有益と思われる情報の提供などのために利用させていただきます。